“美しい国”の商業・アート・景観

photo by Yu NAKAI

photo by Hidechika FUKUYAMA

oto by Mikako TOMOTARI

文科省の私立大学学術研究高度化推進事業の採択プロジェクトとしてスタートした九州産業大学景観研究センターは、この４月で満20年を経過した。20年前の日本社会は「失われた10年」と称された。この時、それまでの国土形成の歩みを振り返り、経済振興中心の公共施設整備が招いた景観の荒廃を立て直すべきことが、国の施策になった。その後、景観に関するはじめての法律ができ、それに基づく景観計画が策定されるようになった。景観が法的に保護されるべき文化財として扱われるようにもなった。

この間に、経済そのもののあり方にも変化が見られるようになった。ESG投資やグリーン・ニューディールがまともに取り扱われはじめた。経済成長に欠かせないエネルギー源としての化石燃料の大量使用による温室効果ガスの大量排出が地球温暖化・気候変動をもたらし、水害と旱魃が頻発し、また激化した。その対策が急務という意識が一般に広がった。こうした状況下で、「だれ一人取り残すことなく」、自然と賢く折り合いをつけながら、開発を進めるべきことが、ひろく求められるようになった（SDGs）。

本センターはこれまでに、ミドルランドスケープ、伝統工芸・陶業の文化的景観、グリーンインフラ等をテーマとして、研究プロジェクトを進め、国内外の関係者と連携を図ってきた。いま、自らの歩みとその社会的背景の移り変わりを踏まえつつ、これからの景観の扱いを考えるためのセミナーを企画した。

景観は生活と密接に関わりながら形づくられる。生業とのかかわりがとくに重要である。産業は環境を変え、景観の趣きを生み出し、また、変化させるのだ。経済活動とくに商品とサービスの交換によって利潤を得る商業とそのための施設の姿は、日本の景観と環境のありかたを左右する。商業とその施設のあり方を問うことは、「10年」どころか「失われた30年」ともいわれる今のこの時に、今後の日本の風景と人々の生息域のあるべきヴィジョンを獲得するために不可欠の要件だ。

一方、生活の必要を超えた、「精神のうずき（スタインベック）」は“アート”を生む。精神の自由は、一方で創造的な人間活動の本質の表現であり、自然である。しかしまた他方において、自由に不可避の不安定な精神は、無謀な逸脱に容易に流れもする。公共空間に設えられる芸術表現・パブリックアートは、空間と地域の景観の質を変える。それは生活景を照らす光、日常を見直すカガミともなり、場合によっては押し付けがましい自己主張ともなるだろう。パブリックアートはまた、商業の影響を受ける。経済活動の圧力が避けられない。

だから景観研究センターはその20周年に当たり、「“美しい国”の商業・アート・景観」を総合テーマとしたい。多くのみなさんの参加を乞う次第である。

景観研究センター所長　山下三平

九州産業大学景観研究センター

景観セミナー／レクチャーシリーズ 2023 前期

テーマ：“美しい国”の商業・アート・景観

■ 6月2日（金） 18:00−19:30
景観・商業集積・建築
福山秀親（九州産業大学 建築都市工学部 住居・インテリア学科　教授）
https://ksu-keikanseminar2023f1.peatix.com/

■ 7月7日（金） 18:00−19:30
景観と意識をつなぐアート　ーパブリックアートの射程ー
知足美加子（九州大学 芸術工学研究院 メディアデザイン部門　教授）
https://ksu-keikanseminar2023f2.peatix.com/

■ 7月21日（金） 18:00−19:30
近現代の社会・人間とランドスケープ
〜「景観」という価値の出自とこれからをかんがえる〜
中井祐（東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻　教授）
https://ksu-keikanseminar2023f3.peatix.com/

会　場：対面　九州産業大学23号館4階　景観研究センター 景観ライブラリー
Online　Zoomミーティング　＊各回ともPeatixにてお申し込みください

参加費：無料

問い合わせ：九州産業大学 産学連携支援室　〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1　電話 092-673-5501